

昨年末、あるアイドルグループの解散が話題となりました。その報道がされる時、きまって流れていた曲があります。

『そうさ 僕は世界に一つだけの花 一人ひとり違う種を持つその花を咲かせることだけに一生懸命になればいい』

誰もが聞いたことのあるフレーズだと思います。この人気グループのヒット曲がきっかけ、というわけでもないでしょうが、運動でも勉強でも一番であることに価値があるとされてきた時代から、個性を持つことをかけがえのないこと、素晴らしいこととする流れに変わったように感じます。

個性とは、個人の持つ性質や特性のこと。個性が大事だともてはやされる風潮ゆえに、個性と言える何か特別なものを持っている自分とは平凡、個性が無いと悩み、さらには自分には価値がないと考えてしまった人もいたかもしれません。一方で、強すぎる個性、いわゆる他者とは違ったものはイジメに繋がったり、社会から冷たい目で見られたりすることもあるかもしれません。

他にも、外国籍の人に対するヘイトスピーチや性的指向の異なる

大切にしたいこと

人への偏見など。自分たちとは違った特性を持つ個人、民族や団体に対して、文化、宗教、生活習慣などが自分たちと「違っていること」を理由にして、その人たちのことを悪く言ったり仲間ははずれにしたりする。残念なことですが、そんな「違っていること」を排除する風潮が、最近は強くなってきたように思います。

人と違っていていいし、人は違っていて当然だと思っています。

冒頭の曲の作詞者の意図するところは、本当の思いがどうであったかは分かりませんが、「自分が持っている特性に気付いて、その良い部分を伸ばそう」「個性も大事。個性を認め合うことも大事」ということを言いたかったのではないかなと、曲の発売から10年以上たって、改めて思いました。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569